

[講演要旨] 1927年北丹後地震の積雪による被災と対応に関する文献調査

水田敏彦*(秋田大学・地域創生センター)・鏡味洋史(北海道大学・名)

§ 1. はじめに

1927年(昭和2年)3月7日の北丹後地震は京都府北西部で発生したM7.3の内陸地震である。この地震により死者2925、全潰5106、全焼7523などの被害が生じている。北丹後地震は冬の期間に発生した地震であり、積雪下での地震防災を考える上で参照すべき数少ない被災例である。当地を含む積雪寒冷地においては、冬期地震が発生した場合、堆積雪や屋根雪による直接被害の拡大が予想される。さらに、積雪に伴う避難および救助・救急活動といった直後対応には多くの困難が伴う恐れがある。本報告では、1927年北丹後地震を取り上げ積雪下での被災と対応に関する文献調査を行うことから始めた。ここでは、当時の新聞記事を中心に積雪期の地震に対する被災と対応の実態を明らかにし、課題を探ってみる。

§ 2. 文献の整理

地震直後の調査報告に雪・冬期間に関する被災と対応が示されているものについて次に示す。

東京大学地震研究所彙報:第3号~10号に詳細な現地調査報告がある。一般的な被害報告のほか、地質、地形・余震測定、構造物被害の報告がある。これら一連の報告には地割れや建物の被害写真の中に雪が撮影されたものがあるものの、積雪期特有の問題などについての記載はない。

奥丹後震災誌¹⁾:震災に関する記録を京都府で取り纏め震災翌年の1928年5月に発行している。本誌は、①叙説、②概説、③被害一応急措置、④救護一応援、⑤復旧一復興、⑥雑録の6項目よりなる。巻頭に多くの被害写真を、巻末には被害の詳細な統計表がある。発震当日や直後の天候、積雪・寒風の中での人々の様子や震災対応の状況が記載されている。

丹後地震誌²⁾:長浜宇平氏の個人の調査に加えて震災直後の新聞記事や学術論文および地方単行本を引用し、積雪下での詳細な被災状況の記事がある。

丹後但馬震災画報³⁾:雪が撮影された写真が多くあり、積雪の状況や被災や対応の様子が窺える。

新聞記事:地震当時京都府の代表地方紙であった京都日出新聞(京都新聞の前身)と大阪朝日新聞京都滋賀版のマイクロフィルムを京都府立図書館で閲覧複写し資料とした。また、東京大学地震研究所所蔵の新聞切抜帳⁴⁾には大阪朝日新聞、大阪毎日新聞の被害関連記事が断片的ながら残されており参照した。新聞には被害調査報告書にはない積雪の状況、地震時の対応などが掲載されている。内容については次章で述べる。

§ 3. 新聞記事に掲載の積雪による被災と対応

積雪による被災と対応の記事を項目別に分類し主だったものを以下に記す。『』は記事の引用を示す。

①**積雪の状況**:平野部で30cm~1m、また、山間部で1m~3m程度の残雪があったことが報じられている。

②**雪による救出の妨げ**:大阪朝日新聞3月8日(以下、[大朝3/8と略記])の号外には『倒壊家屋の下から積雪を掘って逃れ出る』『雪が腰の下位まで積つてをり、倒壊家屋の下敷となつた人はその下から匍ひ出して助かつた』、京都日出新聞3月9日[以下、日出3/9]には『宮津街道山田以北は積雪3尺余にして道路の中央に2尺位の通路あるに過ぎず荷物運搬上支障(中略)入峰する者は(スコップ)を携帯』とある。

③**雪による避難の困難**:『食料品が全く欠乏し約4000人の町民は積雪2尺余の中に箆を敷いて飢餓と寒気と恐怖に襲われています』『京都府庁では管内震災地へ向け取あへず白米200石、毛布6000枚を送る』[日出3/8]、『雨に濡れた躰を日本海の上を渡る寒風に真正面に吹きつけられて(中略)中には凍切つて倒れる者もあり救護本部のブドウ酒やブランデーは瞬く間に全部空になつた』[日出3/9]。

④**風雨による融雪水害**:『同地方は震災に風雨及び雪を加えている』[日出3/9]、『網野、峰山地方は雪解けて日野田川をはじめ各河川が氾濫している水責め火責めの惨状』[大朝京都滋賀3/11]。

⑤**融雪水害による交通障害**:『山田、峰山間菅峠は昨夜7時頃一部残存せし崩土が水分を含み泥土となり流動し(中略)夜業に依り取除かしめ車両の通行に支障なき様にしたるも再び本朝9時頃夜来の雨雪に依り土崩瓦解(中略)取除き従事せしめ交通に支障なき程度のなさしめたるも間断なく崩壊し止む處なく何時交通杜絶するやも計り難き』[日出3/14]。

⑥**経済的な影響**:『火事泥式に北丹震災で薪炭の需要が増すのを見越し「品薄、製産制限、山出しが雪のため困難」等の理由で2割の値上』[日出3/15]。

§ 4. おわりに

本報では、北丹後地震について各種被害報告、新聞記事を参照し、雪・冬期間に関する被災と対応について整理を進めた。今後は冬期に発生した他の被害地震を含め議論を進めていきたい。

謝辞:本研究は科学研究費補助金(基盤研究(C)15K01258)の助成を受けたものである。

【参考文献】1)京都府, 1928, 奥丹後震災誌, 648pp. 2)長浜宇平, 1929, 丹後地震誌, 465pp. 3)大阪毎日新聞社, 1927, 丹後但馬震災画報, 49pp. 4)地震調査研究推進本部:明治大正昭和戦前期新聞切抜帳, <http://www.herpl.adep.or.jp/>